

税務課からのお知らせ

固定資産縦覧帳簿の縦覧について

納税者等は、自己の土地家屋について、他の土地や家屋と評価額を比較し、適正であることを確認することができます。

■縦覧のできる範囲（記載されている内容）

- ・土地価格等縦覧帳簿
所在、地番、地目、地積、価格
- ・家屋価格等縦覧帳簿
所在、家屋番号、種類、構造、床面積、価格

■縦覧場所 福崎町役場 税務課

■縦覧期間 4月1日(火)～6月2日(月) (土・日曜日、祝日を除く)

■縦覧できる人

- ・土地、家屋の固定資産税の納税者、納税管理人
- ・納税者と同一世帯の親族
- ・委任状を有する代理人

■持参するもの

- ・本人確認書類（免許証、マイナンバーカード等）
- ・代理人の場合は委任状（委任状は要印鑑）

固定資産課税台帳の閲覧について

納税義務者等は、自己の資産について、固定資産課税台帳に記載された事項を確認することができます。

■閲覧できるもの 固定資産課税台帳（名寄帳）

■閲覧できる人

- ・土地、家屋、償却資産の固定資産税の納税義務者、納税管理人
- ・納税義務者と同一世帯の親族
- ・委任状を有する代理人
- ・借地、借家人等の利害関係人
(※下記の範囲でのみ閲覧可)

■借地人・借家人が閲覧できる範囲

- 借地人…借りている土地の所有者名、所在、地番、地目、地積、価格、課税標準額
- 借家人…借りている家屋の所有者名、所在、家屋番号、種類、構造、床面積、価格及びその敷地である土地の所有者名、所在、地番、地目、地積、価格、課税標準額

■持参するもの

- ・本人確認書類（免許証、マイナンバーカード等）
- ・代理人の場合は委任状（委任状は要印鑑）
- ・借地、借家人等の利害関係人の場合、賃貸物件の明記された契約書等の利害関係がわかる書類

固定資産の価格に係る不服審査

固定資産課税台帳に登録された価格について不服がある納税者は、福崎町固定資産評価審査委員会に不服の審査を申し出ることができます。この審査の結果、固定資産課税台帳に登録された価格が固定資産評価基準に照らして不適当なものであることが認められると、価格が修正され、税額が修正されることとなります。

■審査申出期間

固定資産課税台帳に価格等を登録した旨の公示日（通常4月1日）から納税通知書の交付を受けた日後3か月を経過する日までに、文書をもって審査の申し出をすることができます。

Q 家屋を取り壊しました。手続きはどのようにしたらよいですか？また、固定資産税はどうなりますか？

A 家屋を取り壊した場合は、税務課資産税係まで「とりこわし家屋報告書」を提出してください。

固定資産税は毎年1月1日に所在する家屋に課税されます。そのため、取り壊した年の年度分は課税され、翌年度分から課税されなくなります。

「とりこわし家屋報告書」が提出されず、他の方法でも取り壊されたことを把握できない場合（例…減失登記をしていない場合など）は、固定資産税が課税され続けてしまいますので、ご注意ください。

軽自動車の「廃車・譲渡」手続きはお早めに！

令和7年4月1日に、軽自動車等（原動機付自転車、小型特殊自動車、ミニカー等）を所有している人には、令和7年度軽自動車税（種別割）が課税されます。

所有者が町外に転出したときや、車両を廃車・譲渡したときは、すみやかに廃車手続きをしてください。

また、盗難や故障等で使用していない車両であっても、廃車手続きをしていない場合は課税対象となります。該当する所有者は令和7年3月末までに廃車手続きをしてください。手続きに必要なものについては税務課管理係までお問い合わせください。

軽自動車税について 管理係（内線343）

固定資産税について 資産税係（内線344・346）

福崎町文化財だより 87

福崎町教育委員会
柳田國男・松岡家記念館
神崎郡歴史民俗資料館

令和6年度 埋蔵文化財発掘調査速報

社会教育課文化財係では、町内の各種開発に伴い、埋蔵文化財調査を行っています。令和6年度も引き続き、高岡福田地区ほ場整備事業によって埋蔵文化財が影響を受ける箇所について、記録のための本調査を行いました。また、中播消防署本署建替工事に伴う調査も行いました。



令和6年度の調査箇所

奈良時代の掘立柱建物20棟以上を発見!! (福田地区)

令和6年6月から令和7年3月まで、高岡福田地区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査を行いました。

令和6年度は福田地区の宮ノ前遺跡で調査を行い、掘立柱建物などの遺構を確認しました。

宮ノ前遺跡は、七種川右岸の低位段丘面に位置する古墳時代から中世にわたる複合遺跡です。福崎西中学校周辺に遺跡は広がっています。西側に三ノ宮神社が鎮座し、江戸時代に中村という集落があったが、洪水で廃村になったと伝えられている地域です。

今年度の調査区からは、掘立柱建物20棟以上、竪穴住居5棟が確認されました。時期は、飛鳥時代から平安時代です(7世紀〜12世紀ころ)。



土器出土状況

竪穴住居からはカマド跡や土器が確認されています。土器の出土状況から奈良時代(8世紀ころ)の遺構が中心であることが分かりました。

高岡福田地区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、今年度で終了いたします。今後は調査成果を報告書にまとめ、展示会や広報などでみなさまにお伝えいたします。

これまで調査にご理解・ご協力いただいた関係者のみなさま、本当にありがとうございました。

南田原条里遺跡第62次調査 (吉田地区)

令和6年11月から12月にかけて、中播消防署本署建替工事に伴い、工事により影響を受ける部分について埋蔵文化財調査を行いました。

調査の結果、中世(12世紀〜16世紀ころ)のものと考えられる掘立柱建物などが確認されました。南田原条里遺跡では、中島井ノ口線の東側を中心に、開発に伴う埋蔵文化財調査数が増加しており、弥生時代(紀元前1世紀〜3世紀ころ)や奈良時代の遺構が確認されています。

一方今回の調査地点では、中世の土器片が見つかったことから、中世にこの地点で人々が生活を営んでいたことが新たに分かりました。今後の調査に期待されます。



調査区全景 (上が北)



現地公開のようす

柳田國男 生誕150周年

記念館だより

今年は、日本民俗学を拓いたことで知られる柳田國男が福岡町で生まれて150年になる年です。

柳田國男は、明治8年（1875）7月31日に、福岡町西田原（当時の表記は飾磨県神東郡辻川村）にあった「日本一小さい家」こと柳田國男生家で、松岡操・たけ夫婦の6男松岡國男として生を受けました。

國男らの先祖は、江戸時代の初め頃に辻川にやって来たと伝えられています。國男の血筋は安永6年（1777）に没した勘四郎が分家したことに始まりました。國男らの祖母・松岡小鶴は優れた詩才と学才を知られ、

この地の大庄屋三木家当主と深い親交を結びました。その息子である國男らの父・操もまた才能を認められ、姫路の藩校への入学を許された後、地域の学業向上に貢献しました。

國男は10歳まで、現在記念館の西側に移築されている柳田國男生家で育ちました。11歳から約1年間大庄屋三木家に預けられ、母の実家現加西市北条で過ごしたあと、長兄の松岡鼎宅に身を寄せるため、明治20年8月に上京しました。以降、國男が故郷へ居を構えることはありませんでしたが、生涯を通じて9回ほど帰郷しています。

福岡町には現在も、柳田國男の研究の基礎となったサンプルが多く残されています。柳田國男生家は民俗学での住居研究の基本形となり、また、生家での

経験が、「民俗学への志」のそもそもの発端となっています。駒ヶ岩の「ガタロ」の話が、全国に分布する河童の類型について関心を寄せるきっかけであり、後に『遠野物語』『妖怪談義』を生み出しました。野に生えるジュズダマに糸を通し、首飾りにして遊んだ経験は、沖縄でのタカラガイとの出会いによって「日本人はどこから来たのか？」という遠大な疑問を解くカギの一つとなり、名著『海上の道』へとつながったのです。

記念館では、柳田國男の生誕150年を記念する催しを企画しています。

福岡町ならではの視点から、國男の功績をご紹介していきます。どうぞ、お楽しみに！



▲柳田國男肖像（昭和37年）

▼柳田國男生家



松岡映丘画稿展

～兄・國男とのつながり～

4月5日（土）～6月1日（日）



▲左 松岡映丘画稿《桃太郎》



右 『桃太郎の誕生』（柳田國男著：昭和8年）

令和7年度の松岡映丘画稿展は、柳田國男生誕150年にちなみ、2人の関係性を物語る作品を取り上げます。

國男は、辻川にあった「立て場」へ幼い映丘を連れて人力車に描かれた武者絵を見たり、錦絵を贈ったことなどが、輝夫を画家にしたきっかけかもしれないと考えていました。

國男は人物を基本のテーマとする大和絵の画風で、風景画を描くことを映丘に勧めていました。一方で映丘は、國男が関心を寄せていた昔話や古典にみられる人々をテーマとした作品を多く手掛けています。

本展では、映丘の画稿から、國男の研究と共通するテーマを扱った作品を展示します。

松岡五兄弟

柳田國男

第81話



「福崎の身近にある歴史を掘り起こそう」

柳田國男と「故郷」

―「故郷七十年」にみえる播州人―

神戸大学大学院人文学研究科 特命講師 井上 舞

辻川出身の民俗学者、柳田國男が生まれたのは明治8年（1875）7月。今年は生誕150年の節目の年にあたります。國男の生家である松岡家は、代々辻川に暮らしてきましたが、明治17年頃に一家で北条に移住。國男だけは一年ほど三木家に預けられていましたが、その後、まずは明治20年に國男が、そして明治22年には残りの家族が関東に移住し、その後播磨で暮らすことはありませんでした。ですから、國男の88年の生涯のうち、播磨で暮らしたのは10年ほどにすぎません。しかし、國男をはじめ他の兄弟たちは、辻川を、ひいては播磨を、先祖の眠る自分たちの故郷と思い、播磨との関わりを大切にしてきました。

國男が最晩年に「神戸新聞」に聞き書きの形で連載した『故郷七十年』には、兵庫県に拠点を置く新聞紙上での連載ということもあってか、その語りの中に多くの播州人や播磨にルーツを持つ人々が登場します。

例えば、兄の鼎（たけな）が住んでいた布佐（ふさ）（現在の千葉県我孫子市）の家の近所には、後に気象学者となる岡田武松（たけまつ）が住んでいました。國男とは若い頃から交流があり、一緒に旅行に行ったこともあり、この岡田家は屋号を「播磨屋」といい、武松の父親の代に播磨から関東に出てきたことを、國男はだいぶ後になってから知ったそうです。

また、岡田武松の妻は、龍野出身で、千葉で開業医を営んでいた海老原精一の孫でした。そして、この海老原の妻は布川（ふかわ）（現在の茨城県北相馬郡）の、こちらも医者であった小川家から嫁いでいました。

鼎は医者になった当初、布川の小川家の一角を借りて開業していましたが、その縁を取り持ったのは、同じ播磨出身の海老原でした。海老原は上京した播州人にとって、とても頼りになる存在であったらしく、「播州人、ことに竜野出身者は、東京へ来ると必ず海老原の家に行った。」と國男は回想しています。（「関東の播磨人」）

また、國男が長年住んでいた成城（東京都世田谷区）の家の近所に住んでいた、英文学者秋元俊吉（あきもと しゅんきち）の祖父が、姫路の有名な歌人であったこと（「父の歌など」）や、友人で小説家の国木田独歩の父親が龍野の出身であること（「国木田独歩の想い出」）なども紹介しています。

当時、東京には全国各地から様々な人々が集まっていた。播磨からも、松岡家だけでなく、様々な職種の人たちが上京し、それぞれの場で活躍していました。こうした上京した播州人の親睦をはかるため、明治15年頃に組織された「鷺陽会」を皮切りに、いくつもの郷土会が組織されました。会員となった人たちは、会報に近況を寄稿したり、ときには一堂に会したりと、積極的に交流を深めていました。松岡家の兄弟たちも、こうした活動に参加しています。（河野雅子「晩年の井上通泰②「播州会会報」より」『姫路文学館紀要』第8号）。

國男は「私はしょっちゅう播州の人と交渉がある」（「播州帰省」）と語っています。その背景には、こうした郷土会を通じて人脈もあったのかもしれません。また、國男は初対面の人に、出身地を訪ねたといいます（千葉徳爾『福崎と柳田國男』）。あるいは、そうした会話の中からも、播磨とのルーツを持つ人との新たな出会いがあったかもしれません。

國男たちと同時代の歌人である、岩手県出身の石川啄木が詠んだ、「ふるさとの訛なつかし停車場の人ごみの中にそを聴きにゆく」という歌があります。東京の上野駅は、

今も昔も東北地方に向かう列車の発着地でした。たとえ故郷に帰ることはできなくても、その人ごみの中から聞こえる故郷の方言は、望郷の念にかられる石川啄木の心を慰めました。

柳田國男は、東京で使われる「いる」ではなく、「西の方の言い方」である「おる」をずっと使っていたといいます。（千葉徳爾同前）今よりもっと方言の地域色が強かった時代。単に同郷というだけでなく、播州人同士の語らひは、ひととき、遙か遠い故郷を思い起こさせるものだったのかもしれません。



岡田武松生家跡（千葉県我孫子市布佐）

令和7年度企画展 教科書展 ―国語編―



約100年前の国語教科書

■会期
4月26日(土)
～6月1日(日)
■会場
歴史民俗資料館

連続講座③のご案内

演 題 「東広畑古墳出土
銀象嵌大刀について」
日 時 3月15日(土) 13:30～
講 師 福崎町教育委員会職員
場 所 神崎郡歴史民俗資料館 2階
受講料 無料(申込不要)
問い合わせ 歴史民俗資料館 ☎22-5699

「雛人形と袱紗展」開催中

期間 3月23日(日)まで
場所 三木家住宅主屋
※土・日曜日、祝日のみ開館
開館時間 9:00～16:30
(入館は16:00まで)



袱紗 猿図

三木家住宅では雛人形を飾る春の催しを開催中です。今回は三木家ゆかりの掛袱紗もあわせて展示しています。掛袱紗は贈り物をする際に品物の上に掛ける覆いとして使用されました。絹織物で作られた美しい袱紗をぜひご覧ください。

「下張り文書」はがし作業中
三木家住宅のふすまの下張りに使われた文書をはがし、保存する作業を、2か月に1度開催しています。令和6年度は1月までに延べ35人のみなさんと作業を実施しました。この作業は今後も定期的に行いますので、大人から子どもまで、多くの方の参加をお待ちしています。



作業のようす

三木家住宅だより

開館時間 9時～16時30分
休館日 月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日(土・日曜の場合は開館)、12月28日～1月4日
入館料 無料
交通 JR播但線で福崎駅下車、タクシー約10分。車は播但連絡道路・中国自動車道で福崎ICから約5分、または国道312号を利用。

柳田國男・松岡家記念館 歴史民俗資料館 利用案内

福崎町文化財だより ⑧7
発行 令和7年3月6日
・福崎町教育委員会
福崎町南田原316の1
☎0790-220560
・柳田國男・松岡家記念館
神崎郡歴史民俗資料館
福崎町西田原108の12
☎0790-221000
(記念館)
☎0790-225699
(歴史)

